

2024年6月1日

第350回山口西田読書会（2024年5月11日開催）の Protokol

担当 廣田

1. テキスト

「8 左右田博士に答ふ」（293頁3行目～295頁1行目）

2. キーワードないしキーセンテンス

- ・ 「体験は認識以前と考へられるが理論理性の自省其者が既に体験の一種ではなからうか。」
- ・ 「知るといふことは一様ではない、私は知るといふことに、少くとも根本的に相反する二つの方向を区別せねばならぬと思ふ。一つは対象認識の方向であり、一つは自覚の方向である。」
- ・ 「真の自覚の意識は述語一般が無となること、即ち真の無の場所に求めなければならぬ。（中略）述語的一般が対立的無として限定され得るかぎり、尚所謂知識的自覚に属するが、更に之を越えて真の無の場所に到る時、意識的自己を忘ると考へられると共に、自己自身の直観として真の自覚に到達するのである。」

3. 考察及び問い

- ・ 認識以前の体験というようなものは、どのようなものがあるか。（例えば、科学者（生物学者・物理学者等）の「水」に関する認識とは違った体験を、私たちは日常の中で「水」を見るときにしているのではないか。）